

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 育ちを捉える～シャボン玉遊びから～／墨田区立立花幼稚園（東京都）

子どもたちの遊びの姿について、学年や園内で共有することはありますか？また、その姿をどのような視点をもって読み取っていますか？

今回は、子どもたちの姿を「経験している内容」という視点から把握することにより、「科学する心」の育ちに大切な子どもの姿を「キーワード」として導き出している事例をご紹介します。このような視点をもって子どもを見ると、同じ場で同じ遊びをしていますが、一人一人の経験や育ちは違うことを読み取ることに繋がります。



### ● シャボン玉を作ろう／5歳児

市販の液を使ってシャボン玉を作ることを十分に楽しんだ子どもたち。自分たちで、シャボン玉液作りに挑戦することになった。保育者は、シャボン玉遊びをもっと深めて欲しいと考え、まずは比較的、簡単な作り方で、成功感を味わいやすい石鹼とぬるま湯を使ったシャボン液作りができるような環境を整えた。

### ✦ 自分で作ったシャボン玉液で試す

- 5～6名の子どもが園庭で、おろし金とボウルを使い、石鹼を削り始めた。保育者は安全な使い方を知らせながら、一緒に石鹼削りに取り組む。
- Aちゃんは保育者に「これぐらい？」と削った石鹼を見せる。「そうね、やってみてごらん」と言われるとぬるま湯を注ぎ、溶かす。ストローでかき混ぜて吹いてみると、水の量が多いために液が垂れてしまい、うまくシャボン玉ができない。Aちゃんは友達の様子を見ながら、水を足したり、石鹼を足したりして何度も試している。
- Bちゃんが、作ったシャボン玉液を吹くと、たくさんシャボン玉ができた。保育者は、「Bちゃんのすごいね！見せて」と認め、かき混ぜながら「すごいね、トロトロだよ」と周囲に知らせる。Bちゃんは嬉しそうに、「トロトロにしたらできた！」と言い、何個もシャボン玉を作って見せる。
- それを見ていたCちゃんは、Bちゃんがシャボン玉を膨らませる様子を見ながら「トロトロか」と呟いて、石鹼を削り始める。保育者は傍で見守りながら、「お、いい感じだね。かき混ぜてみて。トロトロする？」と聞く。
- Cちゃんが、「やってみる」と言って吹くと、一つシャボン玉ができた。保育者が「すごい、トロトロにしたら一つできたね」と言うと、「もっと、トロトロにする！」と言い、また石鹼を削り、何度も試していた。



## 経験している内容

- 初めてのシャボン玉の液作りに興味をもってやってみる。
- 周りの友達の様子をよく見たり、聞いたりする。
- 友達の動きを取り入れ、自分もやってみる。
- 何度も繰り返し試し、成功したことを喜ぶ。

## 科学する心の育ちのキーワード

- 興味をもつ
- 自分なりにやってみる
- 周りの様子をよく見る
- 友達の動きを取り入れる
- 成功を喜ぶ
- もっとやってみたくなる

## ✦ 身近な道具を使って…

- 子どもたちのシャボン玉遊びへの興味を捉え、保育者は、※絵本「しゃぼんだまとあそぼう」を読み聞かせた。また、子どもが自分で考えたり試したりしながら取り組めるように、身近な素材や道具を十分に用意し環境設定を行った。
- 子どもたちは、興味をもった用具を探したり選んだりして、試し始める。
- しかし、液が道具に十分に付いていなかったり、風が強く吹いたりすると、シャボン玉液で作った膜がすぐに破れてしまい、なかなかうまく膨らまない。
- 保育者は一緒に試しながら、子どもの思いに共感し、子どもの取り組む姿そのものを見守り、認めていく。
- 諦めて遊びを終える子どももいる中で、早い段階で成功感を味わって、その後もじっくりと取り組む子どももいる。何度も挑戦し、風向きを読んだり、道具を傾ける角度を試したりしながら、少しずつシャボン玉を膨らませる感覚を掴んでいく。
- Dちゃんは、何種類かの道具を試したあと、園庭で使うプリンカップを手に取り、「底に穴を開けてほしい」と保育者に言う。穴を開けてもらおうと、嬉しそうに試し始める。自分で考えた通りに、シャボン玉ができると嬉しそうな表情をして何度もシャボン玉を作る。
- Eちゃんは、ペットボトルを切った口の部分でシャボン玉を作ることに挑戦。シャボン玉が飛んでいくことよりも、膜が膨らんだり縮んだりする様子を楽しんでいる。「（息を）出すと大きくなって、吸うと小さくなるってこと」と保育者に伝えながら、何度も膜の大きさを変化させることを楽しんでいた。
- Fちゃんは、手がシャボンの液で濡れているのに気付く。すると、「先生、見て！」と言って、手で輪を作り、シャボン玉を作ろうとする。膜はできるがなかなか膨らまない。保育者は、「がんばれ！あと少しでできそう！」と励ます。何度も挑戦するうちに、作ることができた。
- 保育者が、「すごいね、自分でどうやろうか考えたんだね」と認めると、Fちゃんは、「何にもなくてもできるんだ」と嬉しそうな表情をする。



## 経験している内容

- 様々な道具に興味をもって、やってみたいという思いをもつ。
- 自分でやってみたいことを見付け、試す。
- 失敗や成功を通して、風向きや液量、道具を傾ける角度などに気付く。
- 何度も繰り返し挑戦し、成功した喜びを味わう。

## 科学する心の育ちのキーワード

- 興味をもつ
- やってみたいくなる
- 何度も繰り返し試す
- 成功を喜ぶ
- もっとやってみたいくなる
- 人に伝えたいくなる
- 認められて嬉しい

※絵本「しゃぼんだまとあそぼう」

出版：福音館書店 文と構成：杉山弘之・杉山輝行 写真：吉村則人 絵：平野恵理子

## ✦ 保育者の振り返り

- 子どもたちは手を動かしながら、様々なところに関心を寄せ、友達の動きをよく見たり、言葉をよく聞いたりしながらキャッチしたことを自分の動きに取り入れていた。
- 保育者は子どもが困っている様子を見ると、つい「もっと水を少なくしたら？」など手助けをしたくなるが、今回の事例では、自分の力で成し遂げようとする子どもたちの育ちを感じた。
- 成功感のある体験、それを見取り共有する保育者や友達の存在があって、遊びが深まっていくことを感じた。
- 保育者は、子どもたちの姿を「よく見る」「よく聞く」ことで、経験している内容や、「何に面白さを感じているのか、何を追求しようとしているのか」などを適切に読み取ることが大切である。そして、「認める」「共感する」「共に考える」「一緒に追求する」などの援助を通して、さらに子ども自身が探求していくようになる。このような保育者の役割が「科学する心」を育む上で重要だと学んだ。
- 今回、じっくり試す姿が見られた。また、成功感を味わった子どもたちは、「また、あのシャボン玉を作りたい」と、何度も繰り返していた。試行錯誤の先に失敗ばかりでは、探求心は高まっていけないと思われる。子どもたちが考えを巡らせたり、工夫したりする姿に繋がる土台には、成功感を味わう体験ができるような援助と自由に試すことのできる場や時間の保障が重要であることを学んだ。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」